

2011年4月2日

南三陸町現地調査報告

東日本大震災における南三陸町の水産業の被災状況を確認するために、2011年4月2日に現地に赴いたので、ここにその概要を報告する。

1. 事前調査

現地に赴くにあたり、事前に道路状況や調べるべき施設を確認した。道路状況は南三陸町のホームページにて確認することができたが、志津川市街地の橋、および歌津地区の主要な橋が全て破損してしまったため、交通規制がされていることがわかった。

調査すべき施設としては、宮城県水産技術総合センターの酒井部長に確認したところ、宮城県水産技術総合センターでは官用車も全て水没したため現地調査も難しく、志津川地区の漁業をサポートしてきた南三陸町自然環境活用センター（志津川ネイチャーセンター）および海浜高度利用センターの被害状況が確認できていないとのことであった。そのため、両施設の状況確認を行うこととした。

南三陸町自然環境活用センターの横浜センター長および南三陸町産業振興課に問い合わせ、南三陸町自然環境活用センターおよび海浜高度利用センターまでの道路状況を聞いたところ、仮設の橋などが建設され、一応車で行くことが可能であることがわかった。このため、両センターの視察を行うことにした。

さらに、南三陸町の歌津中学校避難所の自治運営を営んでいる三浦弘一南三陸町PTA連盟会長に連絡を取ることができ、歌津地区での漁業の再開に対する展望を聞き取り調査することにした。

2. 現地の状況

志津川地区は、市街地全域が津波によって破壊されており、街の建物のほとんどが全壊していた。津波は標高20m以上の場所まで達しており、3km以上内陸まで達していた。3階建の建物の最上部も津波で破壊されており、4階まで津波が達していた。



電柱なども全てなぎ倒されており、電気はまだ復旧していなかった。電気復旧のため、新しい電柱を立てている状況であった。



志津川の漁港においてもほとんど全ての建物が崩壊していた。上の写真は製氷工場と魚市場である。





海浜高度利用センターも内部は全て津波で洗い流されており、設備は大破していた。近くの漁師に話を聞くことができたが、やはり水産業しか地元で職を見つけるのは難しく、早期の漁業の再開を望んでいるとのことだった。養殖だねが手に入れば養殖も再開したいが、まずは国、県の手で磯の瓦礫撤去を急いで欲しいという要望が強かった。志津川地区では残った船が少なく、瓦礫撤去作業を自らの力で行うことは不可能であり、国、県の力が必要と強く訴えられた。



志津川漁港で、5隻の漁船を確認することができた。これ以外に沖に漁船が数隻確認できたが、沖止めしているのか座礁しているのかは不明であった。





南三陸町自然環境活用センターの入り口にあたる戸倉地区も被害は甚大で、戸倉小学校は3階建の校舎の屋上に建つ建造物（4階に相当）に漁網がかかっていた。南三陸町自然活用センターへの道も大破しており、仮設の橋や道路が建設されていた。自然環境活用センターも1階、2階とも津波によって被害を受けており、2階バルコニー部分にはトラックが流されてきていた。内部の破損状況はひどく、全ての機器類が使用不可能と思われた。

歌津中学校には、南三陸町PTA連盟会長の他、多くの漁師が避難していた。集落によっては全ての船が流されてしまったようだが、それぞれの集落で数隻は漁船が残っているとのことであった。皆、早期の漁業再開を願っているとのことであった。しかし、志津川地区同様、養殖だねが手に入れば養殖も再開したいが、まずは国、県の力で磯の瓦礫撤去を急いで欲しいという要望が強かった。また、集団疎開が始まっており、漁業が再開できる見込みがたたなければ集団疎開に踏み切る集落もあるとのことだった。

3. おわりに

現地の被害の状況は報道で感じているものを遙かに越えるものであり、衝撃的であった。想像を遙かに越える規模の被災を目の当たりにし、人間の無力さを実感せざるをえなかった。現地の漁師達が現在望んでいるものは、磯の瓦礫撤去、航路の安全確保、港の施設の復旧、燃油の安定供給など土木・建設作業を中心とするものであり、水産総合研究センタ

一の力が及ぶ範囲ではなかった。また、現地ではまだ電気、水道などのライフラインが復旧しておらず、電話も衛星電話以外は使用ができない状況で外部からの情報不足も深刻であった。

水産総合研究センターとしてできる支援は、これまで行ってきた研究、モニタリングの継続とその成果に基づいた正確な状況提供、そして漁業を再開するにあたり技術的な相談をできる窓口を県と協力して確保することがまず第一であると思われた。特に、漁業、水産産業を再開する際に海洋環境に関する正確な情報を提供できる体制を立て直し、再開時のリスクを少しでも下げることが重要であると思われた。

東北区水産研究所

業務推進部 田中信一

若鷹丸 中本裕貴、仲野智文

資源海洋部 伊藤進一